

2025年度

学校自己評価報告書

常翔啓光学園中学校・高等学校

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保証を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

II. 実施方法

1. 実施期間：2025年11月25日（火）～12月1日（月）

2. 調査対象：本校教職員100人

職域	人数	割合（%）
1. 専任教員	54	54%
2. 特任教員	28	28%
3. 事務室職員	18	18%
合計	100	100%

3. 実施方法：アンケート形式の選択評価

4. 評価項目：（1）基本的な生活習慣指導に関すること 2項目
（2）教務・教科指導に関すること 3項目
（3）進路指導に関すること 5項目
（4）クラブ活動・生徒会活動に関すること 2項目
（5）学校行事に関すること 6項目
（6）健康管理に関すること 3項目
（7）施設に関すること 3項目
（8）保護者・社会との連携に関すること 5項目

5. 評価方法：①「十分できていると思う」・・・ プラス評価
②「できていると思う」・・・ プラス評価
③「あまりできていない」・・・ マイナス評価
④「できていない」・・・ マイナス評価
⑤「わからない」「未回答」

※満足度スコアについては、人数と割合で示している。さらに割合は基準を基にして合計した値を、有効回答数から「わからない」と回答した数を引いた数で割って算出している。

- ①「十分できていると思う」・・・ +3点
②「できていると思う」・・・ +1点
③「あまりできていない」・・・ -1点
④「できていない」・・・ -3点

6. その他：2025年度はアンケート項目の一部を見直した。昨年度との比較も織り交ぜながらの評価とする。

III. 2025年度「教育目標」と「重点目標」

1. 教育目標

- (1) ユニバーサル社会を創造する自覚と能力を育み、社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 社会に貢献できる学力と人間力を持ち、世界で活躍できる人材を育成するために、充実した進路指導に加えて先進的な教育を実践する進学校となる。

2. 重点目標

	重点目標	自己評価
(1)	中学校・高等学校ともに募集人員の充足	△
(2)	授業第一（授業見学・公開研究授業の継続実施など）	○
(3)	生徒・保護者の希望する進路の実現	○
(4)	国公立大合格 48 名（一貫・特進コース対卒業生数比 25%） 関西 8 私大 3 女子大進学 72 名（進学コース対卒業生数比 30%） 学園内大進学 152 名（対卒業生数比 35%）	未確定
(5)	生徒、教職員が誇りに思える学校づくり	○
(6)	教育探求部を中心とした新しい教育活動の発展	◎
(7)	2026 年度土曜日廃止に向けた検討継続	◎

3. 取り組み内容および自己評価

- (1) 中学校募集人員 90 名に対して入学予定者数は 68 名で、募集人員を充足できなかった。学校説明会・各種イベントなどへの参加者は前年度よりも増加しており、生徒募集活動に対してはある一定の成果を上げたが、受験者数・入学者数に繋げることができなかった。次年度は、さらに多くの新入生を迎え入れられるよう、教育内容の充実に取り組んでいく。
高等学校入試は、授業料無償化の影響を受けて、受験者数は内部進学者を含めると 1,500 名を超えた。また、昨年度と比較して専願者数が 70 名増加した。本校の教育内容や施設の充実が広く周知され、専願率は上昇傾向を維持している。特進、進学各コースの魅力をさらに押し出し、今後とも選ばれる学校としての地位を高めていくよう教育内容の充実を図る。最終的な入学予定者数は、募集人員を超える 440 名前後を予想している。引き続き広報活動にもさらに力を入れ、来年度に向けても認知度を高め、さらに安定した受験者の獲得を目指す。
- (2) 授業アンケートは年 2 回実施している。今年度も中高ともに満足度が高い数値で推移している。教員評価制度による業績評価の目標として、各教科主任は授業アンケートの満足度上昇を掲げている。目標達成についての評価はこれからであるが、自己分析を行い、今後の改善に役立てたい。

- (3) 学力の伸長に対する取り組みとして、放課後講習、夏期・冬期進学講習においてテストゼミ形式の授業を徹底させ、模擬試験や大学入試問題の過去問を解く機会を増やしている。適切な時期の進路ガイダンスや入試状況の情報収集など、生徒や保護者への情報提供も欠かさず行っている。教員間の授業見学を積極的に行う環境を整備し、各教科の研究授業も充実してきた。また、従前どおり生徒面談や保護者面談を計画的に実施し、大学合格実績向上へとつながるように教職員一同取り組んでいる。
- (4) 大学合格実績について、学園内大学の受験者数が大幅に増加している。現時点では一般入試結果が出そろわない時期なので、実績的な部分についてのコメントは差し控える。社会全体で経済が停滞し、各家庭でも同様の状況が生じている。大学入試にも影響が大きく、受験回数減少や年内推薦入試受験者数増加などが顕著な例である。経済的な問題という生徒本人の学力とは違う要素で卒業後の進路が変わってしまうところは、本来であれば避けたい事柄である。受験指導については例年と変わらず実施できている。進路選択の幅も例年どおりの広がりを見せた。今後も引き続き、「生徒の希望、保護者の願いを叶える」進路指導を実践していく。
- (5) 「IV.自己評価報告」の各項目にあるとおり、すべての項目が及第点であるとは言えない。結果を検証し改善すべき点は改善することで、生徒、保護者、教職員が誇りに思える学校づくりを目指す。
- (6) 教育探求部が中心となり、すべての探究活動・学校行事に Liberal Arts を意識した取り組みを実施している。海外からの訪問の受入れも積極的に行った。高2・高3学園内大学進学クラスにおいては、地域の課題解決型授業の実践と深化に力を入れることができた。また、DX 加速化推進事業の補助金により、生徒・教員の国内・海外DX視察研修、各種コンテスト参加、プログラミング講座開講、人型ロボット Pepper 導入などを実施した。来年度以降も、さらに充実した取り組みを継続していく。
- (7) 2026年度からの土曜日授業廃止に向けて、生徒・保護者に対する説明会を実施し、その目的や今後の学校運営に対する理解と協力を求めた。より有意義な土曜日の時間確保や活用をしてもらうため、さまざまな学習プログラムを計画している。

IV. 自己評価報告

達成度の基準については、目標と結果の差により、◎ 0.5 以上(大きく達成)、○ 0.0 以上 0.5 未満(達成)、△ -0.5 以上 0.0 未満(概ね達成)、× -0.5 未満(未達成)とした。

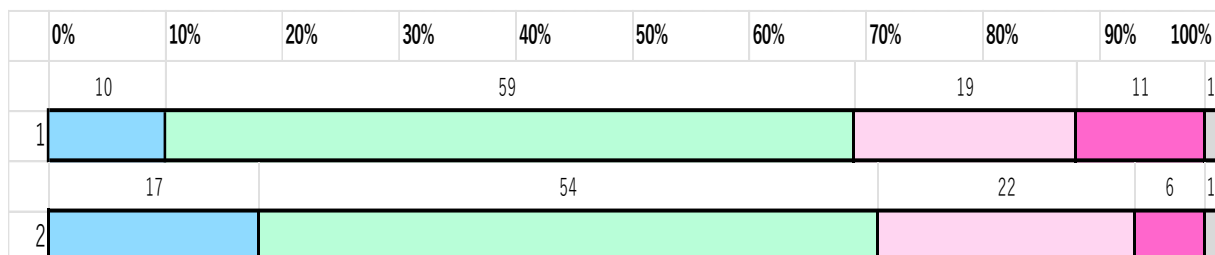
2024年度内に2025年度の満足度スコア目標を設定した。また、直近3か年間の推移を見つめながら2026年度の目標値を設定した。

－ 凡例 －

十分できていると思う	できていると思う	あまりできていない	できていない	わからない
------------	----------	-----------	--------	-------

1. 基本的な生活習慣指導に関すること 2項目

番号	設問文	2025 満足度 スコア目標	2025 満足度 スコア結果	差	達成度	2026 満足度 スコア目標
1	あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。	0.0	0.4	0.4	○	0.5
2	学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。	0.0	0.7	0.7	◎	0.8



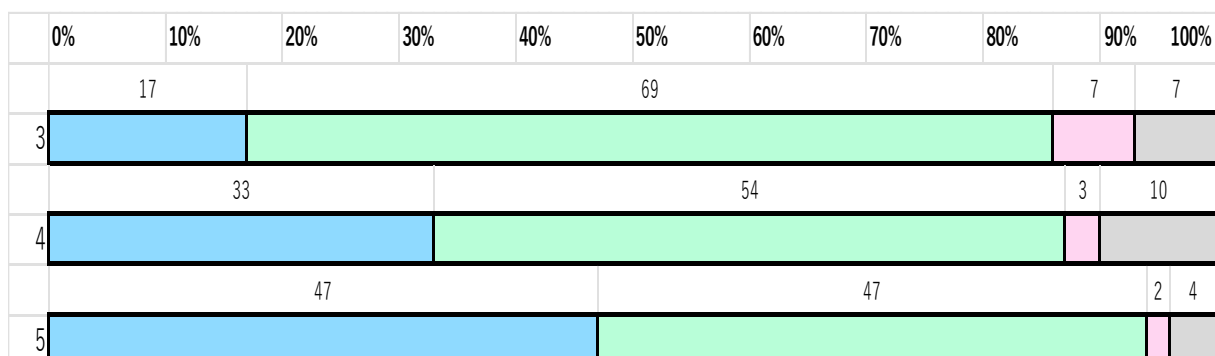
【評価と次年度の目標について】

「社会に通用する指導」「ルール遵守についての指導」に関して、基本的な生活習慣を身に付けることが、学校生活の土台になると考えている。今年度は両項目において、前年度と比較してスコアが上がっている。しかし、毎日の登校遅刻が常態化しており、通学途中の徒歩・自転車や公共交通機関利用時のマナーについての苦情も受けている。

基本的な生活習慣の確立、時間やルールの厳守、社会に通用するマナーについては学校における指導だけでなく、各家庭における保護者の協力も必要不可欠である。引き続き、生徒指導部を中心に教職員間の意思統一を図り、全学的に徹底した指導をしていく。

2. 教務・教科指導に関すること 3項目

番号	設問文	2025 満足度 スコア目標	2025 満足度 スコア結果	差	達成度	2026 満足度 スコア目標
3	授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。	1.4	1.2	-0.2	△	1.4
4	生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。	1.7	1.7	0.0	○	1.8
5	生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。	2.1	1.9	-0.2	△	2.1



【評価と次年度の目標について】

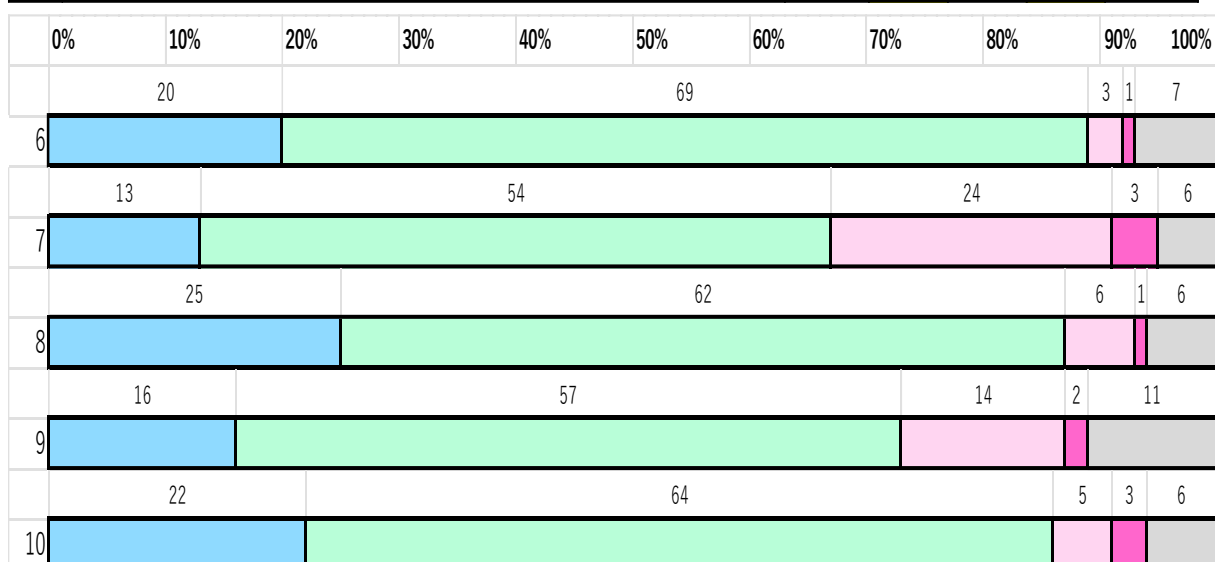
教務・教科指導に関して、2項目のスコアが目標よりも下がったものの、他の項目に比べて評価が高い。学校教育の最も大切な要素の一つである授業に対する教員の意識の高さが、このスコアに表れていると感じる。

「授業の年間計画や成績評価の方法」に関しては、長年にわたり蓄積・改良されたものであり、担当者による授業の質の変化を防ぐためにも不可欠である。「教材や教え方の工夫」「生徒の学習意欲の向上」のために、日々熱心に教材研究をしている教員の姿が見られる。そして何よりも「質問に対する熱心な対応」に関しては、昨年度に引き続き、すべての項目の中で最もスコアが高く、生徒や保護者からの信頼を得るうえで重要なポイントである。

また、年2回実施している授業アンケート結果に関して、各コースや教科会議で分析・議論しながら、教員個々が目標達成に向けて自己研鑽をするよう促したい。

3. 進路指導に関すること 5項目

番号	設問文	2025 満足度 ｽｺｱ目標	2025 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2026 満足度 ｽｺｱ目標
6	担任として（担任以外は自分が担任になるとして）、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。	1.6	1.3	-0.3	△	1.6
7	ICT機器やアクティブラーニング型の授業などを適切に活用した授業を提供している。	0.7	0.6	-0.1	△	0.7
8	進路指導に関するガイダンスや行事を適切に行い、必要とする情報を的確に生徒に提供している。	1.2	1.4	0.2	○	1.5
9	学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。	0.8	1.0	0.2	○	1.1
10	生徒の学習に役に立つ、検定や模擬テストを実施している。	0.9	1.2	0.3	○	1.3



【評価と次年度の目標について】

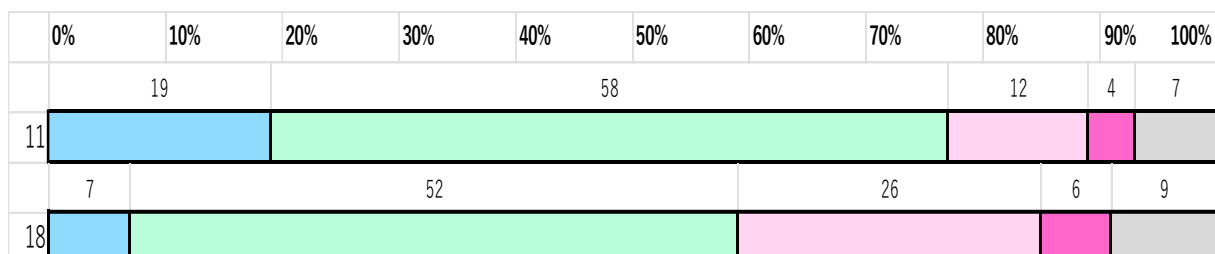
「生徒との個人面談」「ICT 機器やアクティブラーニング型の授業」に関しては、昨年度に比べてスコアが下がっているが、全体としては肯定的評価が高い。

「進路指導に関するガイダンスや行事、情報提供」に関しては、進路指導の観点において上手く機能している。『生徒の希望と保護者の願いを叶える』ことを進路指導の基本方針としており、これを実現するために重点を置いている項目のスコアが高いことは、目標に向けて具体的な動きができているものと考えられる。

コースを主体とした教育実践として、一貫・特進・進学それぞれのコースに特色を持たせた「進学講習」に取り組んでいる。各コースの中でも、習熟度別で講習を展開するなどの工夫が見られた。「検定や模擬テスト」に関しては、今後も生徒の学力を適切に分析しながら、学力を最大限に伸ばさせるために取り組む。

4. クラブ活動・生徒会活動に関すること 2 項目

番号	設問文	2025 満足度 ｽｺｱ目標	2025 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2026 満足度 ｽｺｱ目標
11	クラブ活動が充実するよう努めており、学習とも両立させやすいよう配慮している。	1.1	1.0	-0.1	△	1.1
18	生徒会活動は活発である。	0.4	0.3	-0.1	△	0.4



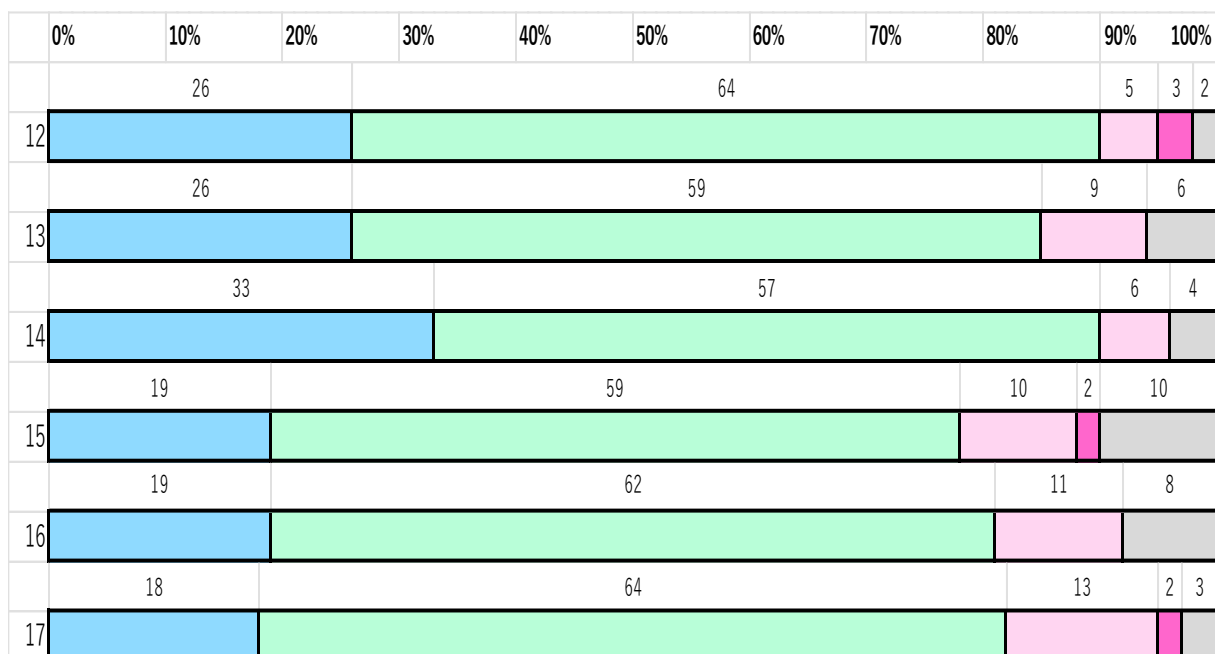
【評価と次年度の目標について】

「クラブ活動の充実、学習との両立」に関しては、スポーツ庁が策定したガイドラインに沿って、今後もクラブ活動と学習の両立が達成できるような指導が必要である。学習においては、授業時間だけではなく家庭における時間確保も含めて、生徒が進路実現に向けてしっかり取り組めるようにする。

「生徒会活動」に関しては、生徒会執行部員が中心となり、学校行事の企画・運営やボランティア活動への参加、校則の見直しなど、主体的に活動する雰囲気生まれてきている。特に、校則の見直しにおいては、防寒具や靴下の規定における積極的な意見交換がみられ、生徒・保護者による評価は高い一方で、教員においてはスコア目標に達していない。

5. 学校行事に関すること 6項目

番号	設問文	2025 満足度 スコア目標	2025 満足度 スコア結果	差	達成度	2026 満足度 スコア目標
12	宿泊行事や修学旅行を通して生徒に様々な体験の機会を提供している。	1.7	1.3	-0.4	△	1.7
13	体育祭は生徒の良い成長機会になっている。	1.1	1.4	0.3	○	1.5
14	啓光祭は生徒の良い成長機会になっている。	1.2	1.6	0.4	○	1.7
15	中高大連携の取り組み（中学K1クエスト、高1思春期教室・異文化交流、高2みらいマップ、学園内大学説明会など）は生徒の良い成長機会になっている。	0.5	1.1	0.6	◎	1.2
16	学校外との連携（未来を啓けプロジェクト、企業探究プログラムなど）を深め、生徒の興味関心を広げる取り組みを提供している。	0.9	1.2	0.3	○	1.3
17	他国・地域の歴史・文化を理解し、海外の人々や学校と交流する機会を提供している。	1.0	1.0	0.0	○	1.1



【評価と次年度の目標について】

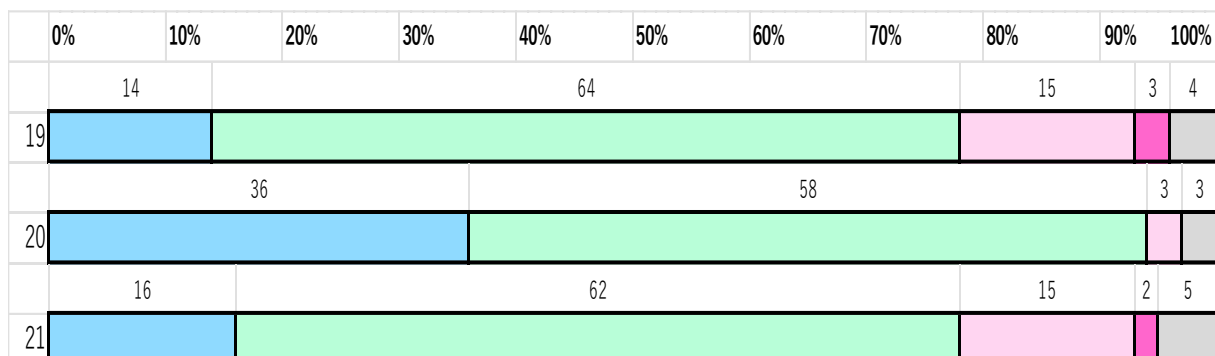
「体育祭」「啓光祭」「中高大連携」に関しては、昨年度を上回る高評価となった。コロナ禍から数年が経過し各行事が本格化するなか、全校生徒の一人ひとりがより主体的に参加ができるようになってきた成果である。

「宿泊行事や修学旅行」は、各コース学年教員が中心となり、コースの特徴と目的をもって安全面に十分注意しながら実施している。今年度においてスコアが下がった要因を分析して改善を図る。

「学校外との連携」「海外の人々や学校との交流」に関しては、教務部・教育探求部が中心となり、多様化する生徒の興味関心を深める内容の企画が高スコアに繋がっている。1月には、台北市立蘭州国民中学との間に「教育交流・協力に関する協定書」を締結し、今後の生徒間交流をさらに発展させる。

6. 健康管理に関すること 3項目

番号	設問文	2025 満足度 ｽｺｱ目標	2025 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2026 満足度 ｽｺｱ目標
19	生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。	0.8	0.9	0.1	○	1.0
20	生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。	1.5	1.7	0.2	○	1.8
21	人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応している。	0.7	0.9	0.2	○	1.0



【評価と次年度の目標について】

すべての項目において、肯定的評価が多かった。

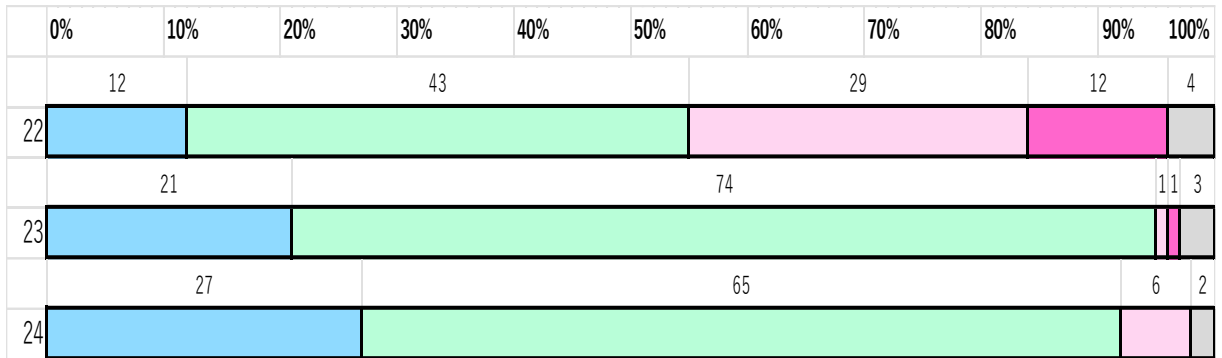
「安全・健康に関する指導」に関しては、保健室前の掲示板を利用した啓蒙活動や保健だより・カウンセラー通信の発行が継続的に行われている。

「保健室の適切な対応」に関しては、ここ数年継続して高スコアである。日常の学校生活での評価はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの対応について文部科学省や大阪府からのガイドラインに従い、感染拡大防止に向けて徹底した指導を継続している。

「生徒の悩みの相談」に関しては、担任をはじめ学年教員、養護教諭、そしてスクールカウンセラーによるカウンセリングなどを行っている。また、3学期からはスクールソーシャルワーカーを新規設置して、チーム学校による生徒・保護者の心身両面でのサポートに努めている。引き続き、生徒や教職員の健康管理にも取り組んでいく。

7. 施設に関すること 3項目

番号	設問文	2025 満足度 ｽｺｱ目標	2025 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2026 満足度 ｽｺｱ目標
22	清掃活動や環境美化指導を徹底している。	0.3	0.1	-0.2	△	0.3
23	学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。	1.1	1.4	0.3	○	1.5
24	図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。	1.3	1.4	0.1	○	1.5



【評価と次年度の目標について】

「清掃活動や環境美化指導」に関しては、昨年度よりスコアが下がっている。清掃活動は、校内美化の役割を果たすだけでなく、さまざまな教育的意義を持つと考えられ、基本的な生活態度の育成に適切な取り組みである。また、清掃業者の方々が、生徒や教員では目の行き届かない隅々まで気を配っていただいている現状も忘れてはならない。生徒と教員が同じ清掃活動をすることにより、授業以外の心のふれあいの場として取り組む必要がある。

「学校施設・設備」に関しては、高スコアを維持している。旧式となった電子機器の新型への交換など ICT 機器を活用した教育を推進するために、引き続き環境整備を積極的に行っていく。また、今年度は体育館の空調（エアコン）や換気システムを整備した。

「図書室の利用」に関しては、生徒や教職員への情報配信、図書の配置などさまざまな工夫がみられる。

8. 保護者・社会との連携に関すること 5項目

番号	設問文	2025 満足度 ｽｺｱ目標	2025 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2026 満足度 ｽｺｱ目標
25	学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。	0.7	1.1	0.4	○	1.2
26	学校のホームページは必要な情報を適切に発信している。	0.6	1.1	0.5	◎	1.2
27	生徒は、本校に入学したことで学力的に成長できている。		1.0	1.0		1.0
28	生徒は、本校に入学したことで人間的に成長できている。		0.9	0.9		0.9
29	生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。	0.7	1.1	0.4	○	1.2



※質問項目 27・28 は今年度から新規導入。

【評価と次年度の目標について】

学校から保護者への家庭連絡に Classi を利用する教職員が増え、学内の様子などについての情報提供が適切に実施されている。毎日の欠席・遅刻連絡は、全学年において Classi を利用することにより、保護者からも高評価を得ている（2026 年度からは Classi から BLEND に変更）。

「ホームページの活用」は、本校を知ってもらう最良のツールとなっている。インターネットの普及により、情報収集にホームページを活用することは極めて一般的である。また、Instagram により最新情報を提供するよう工夫を凝らしており、フォロワーも増加している。学校生活や取り組み紹介、クラブ活動、募集活動などさまざまな観点から情報を発信している。タイムリーな情報提供を今後も継続していく。

生徒の「学力的な成長」「人間的な成長」に関しては、新たな質問事項であるが「学校生活の満足度」とともに肯定的な回答が多く、今後も一つひとつの取り組みを大切に、教職員全員で協力することで、さらにより良い学校を築いていく。

V. 総合評価と今後の改善方法

教育の質と内容が変化していくなか、昨年度とはアンケート項目も少し変えて本校の教育活動の検証を行った。

「満足度スコア」において、29 項目すべてがプラス評価であった。全体的には、プラス評価ではあるものの昨年より数値が下がっているものがあり、個々の満足度についてはまだまだ改善の余地がある。もともと肯定的評価が高いものについてはそれ以上の結果を求めることは至難の業ではあるが、やはり更なる高みを目指して教育活動に励んでいきたい。特に「清掃活動や環境美化指導の徹底」に関しては、29 項目のなかでスコアが最も低い。清掃活動は、校内美化の役割を果たすだけでなく様々な教育的意義を持つと考えられる。また、同じ作業をとおして、教員と生徒の心のふれあいの場を大切にしていきたい。

「教務・教科指導」に関しては、生徒の授業アンケートからも高い評価は得ているが、授業内容について興味関心を掻き立てるような工夫がさらに必要である。ICT 機器を活用した授業への取り組みは、引き続き全学的な検討が必要となる。今後も教員同士の授業見学や研究授業により、教員の教育力向上を図りたい。

「進路指導」に関する自己評価は、一部項目において少し下がってはいるが、大学入学共通テストへの対策や情報収集にも積極的に取り組み、生徒や保護者への情報提供をさらに進めていきたい。授業で教える内容や生徒が学ぼうとする意欲をさらに高め、卒業後の進学に関しては、生徒一人ひとりの願いを叶える指導を徹底する。

本校では「グローバル教育」「キャリアデザイン教育」「イノベーション教育」を教育の3つの柱とし、日々教育実践に邁進している。目的や目標を持って学習活動や学校行事に取り組んでほしいと考えているが、毎年の繰り返しによってそれが薄らいでしまう。ルーチン化を払拭するために、目的や目標を取り組み前に確認し、取り組み後に振り返りがしっかりできるように、各行事で身に付けてほしい9つの力を見える化した「K¹GOALS」を策定している。これにより生徒たちは何ができるようになったかを実感することができ、年々、学校全体の教育活動に浸透してきている。学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が体感できるように、積極性のある生徒を育てていきたい。

これらの改善に取り組む一方で、教職員の働き方改革にも取り組んでいる。ICT 機器の活用やワークシェアの実践など、少しずつではあるが改善の兆しも見える。今年度からは新たにフルクラウド統合型校務支援システム BLEND を導入することにより、教職員の業務を一元管理することで業務時間の軽減を図っている。会議時間の短縮やメールでの情報共有などが定着しつつあり、学校外での時間も有意義に過ごし、教員それぞれが健康で心豊かな生活が送れるようにということを念頭に置きながら、サービス改善を実行中である。

また、2026年度から土曜授業を廃止する。その目的は、Well-being の向上を目指して、生徒・保護者には、より有意義な土曜日の時間確保や活用をしてもらうためである。具体的には、自学自習、1週間の振り返り、学びの個別最適化（資格試験など）、部活動、趣味、課外活動（ボランティア・地域活動など）などに、生徒たちに主体的に取り組んでもらいたいと考えている。教職員においては、業務負担や勤務時間の軽減など、教員を取り巻く環境を整備することにより、学校教育の質の向上を目指す。土曜日には、K¹タイムや自習室（図書室など）を利用できるよう計画している。教員の長時間労働が社会問題化し、本校だけで解決できるものではないが、学園全体として積極的に取り組んでいるところである。

資 料 2025年度常翔啓光学園中学校・高等学校 教職員アンケート

1. あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。
2. 学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。
3. 授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。
4. 生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。
5. 生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。
6. 担任として（担任以外は自分が担任になるとして）、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。
7. ICT機器やアクティブラーニング型の授業などを適切に活用した授業を提供している。
8. 進路指導に関するガイダンスや行事を適切に行い、必要とする情報を的確に生徒に提供している。
9. 学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。
10. 生徒の学習に役に立つ、検定や模擬テストを実施している。
11. クラブ活動が充実するよう努めており、学習とも両立させやすいよう配慮している。
12. 宿泊行事や修学旅行を通して生徒に様々な体験の機会を提供している。
13. 体育祭は生徒の良い成長機会になっている。
14. 啓光祭は生徒の良い成長機会になっている。
15. 中高大連携の取り組み（中学K¹クエスト、高1 思春期教室・異文化交流、高2 miraiマップ、学園内大学説明会など）は生徒の良い成長機会になっている。
16. 学校外との連携（未来を啓けプロジェクト、企業探究プログラムなど）を深め、生徒の興味関心を広げる取り組みを提供している。
17. 他国・地域の歴史・文化を理解し、海外の人々や学校と交流する機会を提供している。
18. 生徒会活動は活発である。
19. 生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。
20. 生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。
21. 人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応している。
22. 清掃活動や環境美化指導を徹底している。
23. 学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。
24. 図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。
25. 学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。
26. 学校のホームページは必要な情報を適切に発信している。
27. 生徒は、本校に入学したことで学力的に成長できている。
28. 生徒は、本校に入学したことで人間的に成長できている。
29. 生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。